

# 平成27年度 研究テーマ

「子どもの育ちをつなげ、  
社会でいきる子どもを育てるキャリア教育の推進」  
(2年目)

## キャリア教育の定義

「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」

「今後のキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）平成23年1月31日」

特定の能力や態度を身につけさせるために「教え込む」のではなく、児童生徒一人一人が主体的に諸活動に取り組み、生活上・学习上経験するもの・ことに対して自分なりに意味づけ・価値づけ・関連付けることができるように支援すること、すなわちキャリア発達を促す教育である。

# 白兔養護学校 キャリア教育全体計画の目標

○自分の意志で生き方を考えたり、進路を選択したりする  
能力を身につける。

（自己理解、自己選択、自己実現、自己責任）

○社会参加に必要な知識、技能、態度を身につける。

（コミュニケーション、作業態度、人間関係の結び方）

# キャリア教育と特別支援教育と較べると・・・

特別支援教育は以下のように言われています。

- 児童生徒の願いを大切にします。
- 児童生徒にとって「社会参加」を目指すという「思い」を持って取り組む。
- 学習の内容を生活に生かす視点がある。
- 将来の自立を見据えつつ、「いま」の生活を充実させるといふ、「生きた力」を踏まえた主体的な学びを志向する。

特別支援教育が目指すものと、キャリア教育で目指すものは重なる部分が多いです。でも・・・

- これまで言語化されていなかったことを言語化していくことで、より学習活動の充実、効率化、系統化、一貫性が促進される。  
「その指導がなんで大事なのか？」
- 児童生徒、教師にとってのなぜを明確にして主体性を育む  
「〇〇になるためには、△△ができるようにしなきゃ」

→ 「なぜ」「なんのために」を持って、教育活動を見直す

## キャリア教育と職業教育、進路指導をくらべると・・・

キャリア教育の視点としては、

ワークキャリア と ライフキャリアがある

- 就労して終わりではなく、就労した後に働き続けられる視点がキャリア教育。進路先確保で終わりではない。
- 働く場面だけでなく、生活全般を包括した視点で役割や余暇なども含めて考えていくことが必要である。
- 学校だけでなく、家庭や地域と連携して行います。
- 結果を出すまでの過程を大切にします。

→ 高等部、中学部からでなく、小学部からできるのがキャリア教育！

# キャリア教育の意義

- ①一人一人のキャリア発達や個性を直すことにより、教育課程の改善が促進される。各職員に教育の理念を共有され、学校がこの視点から教育の理念を構成して、教育の在り方を幅広くとともに、教育課程の改善が促進される。
- ②将来、社会人、職業人として自立していくために発達させるべき能力や態度があるという前提に立って、各学部段階で取り組むべき発達課題を明らかにし、日々の教育活動をおして達成させることを目指すものである。
- ③学校生活と社会生活や職業生活を結び、関連づけ、将来の夢と学業を結びつけることにより、生徒・学生等の学習意欲を喚起することの大切さが確認できる。
- ④このような取り組みを進めることを通じて、学校教育が抱える様々な課題への対処に活路を開くことができる。

# キャリア発達を促す視点を授業に取り入れる意味

## 児童・生徒

- 社会の状況・変化や就労先の多様化等に対応しようとする
- 夢や希望を持って主体的に取り組もうとする
- 地域で生きることにつながる

## 教師

- 将来、生活全体を見据えた視点を持つことで教職員の価値観が揃い、学校としての方向性が統一される
  - 小、中、高における一貫性、系統性を踏まえた指導内容及び方法が充実する
- 教師にとって組織的、個人的な教育活動の見直しにつながる
  - 「なぜ」「なんのために」「なにを」「いつ」「どのように」

- ・教職員が教育の理念と進むべき方向性の共有(答申)
- ・校内の組織づくり(本校におけるキャリア教育を推進する基盤)

## ①学校全体での組織的なキャリア教育を促進する体制づくり

- ・発達させるべき能力や態度があるという前提に立って、各学部段階で取り組むべき発達課題を明らかにし、日々の教育活動をとおして達成させる。(答申)
- ・教員の専門性向上(本校におけるキャリア教育を推進する基盤)

## ②系統的、一貫性のある授業づくりのためのシステム構築

- ・学校生活と社会生活や職業生活を結び、関連づけ、将来の夢と学業を結びつけることにより、生徒・学生等の学習意欲を喚起することの大切さ。(答申)
- ・教員の専門性向上(本校におけるキャリア教育を推進する基盤)

## ③各学部児童生徒のキャリア発達の実態に即した授業づくり

# 研究仮説

①分掌等の連携を通して、組織的な連携を図る。

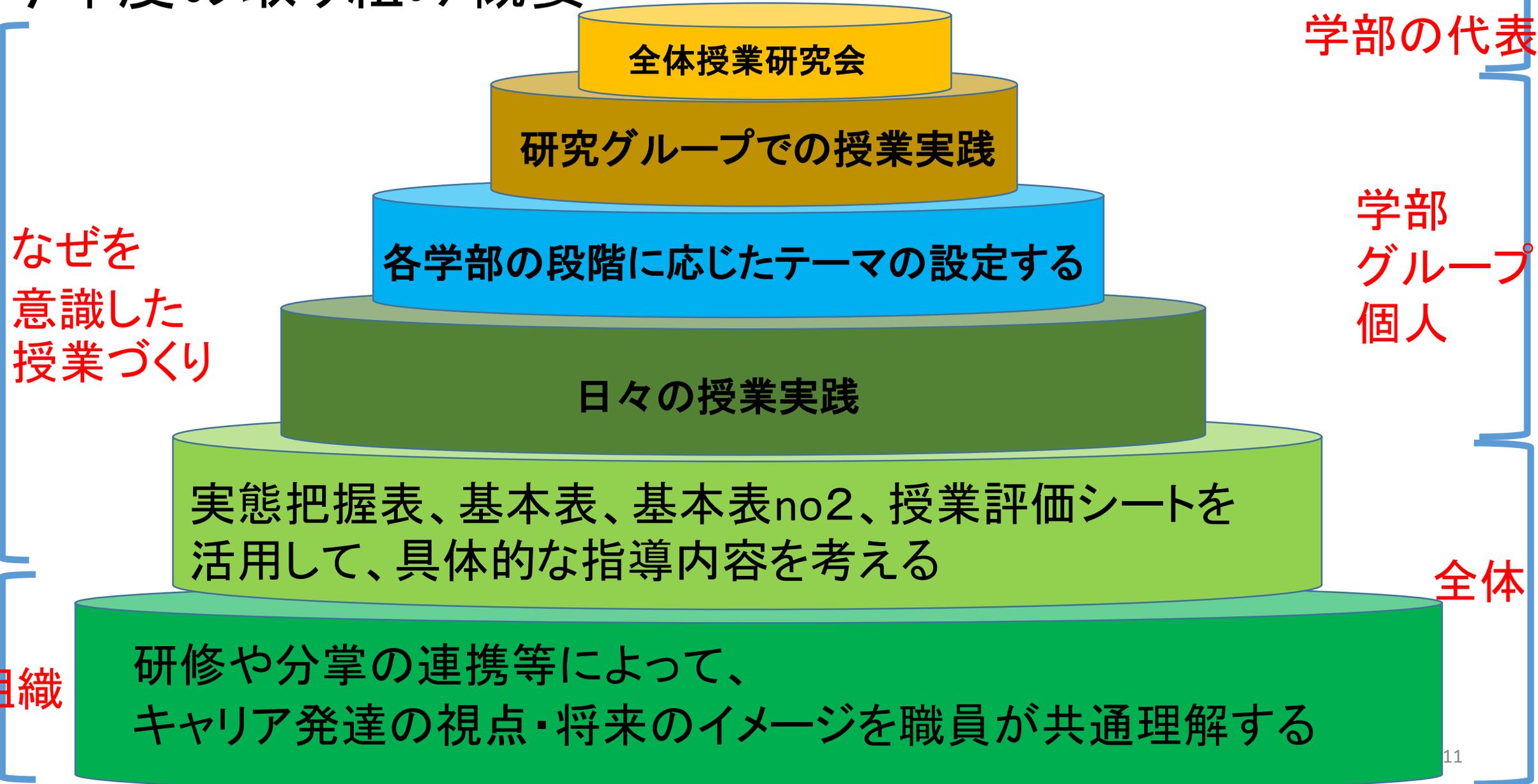
②キャリア発達の視点の理論研修や児童生徒、卒業生の情報交換、実態把握表の使用等を通して、児童生徒の将来に必要な力やキャリア発達の具体的な視点について知る。

③実態把握表や基本表、授業評価シート等を活用し、授業の目的を明確にしたり、RPDCAサイクルを意識した授業づくりをしたりすることを通して、日々の授業の見直しを図る。



①②③を通して、学校としての方向性が統一されるとともに、個々の教師にキャリア発達を促す指導の意識が高まり、系統的、一貫的な指導につながると感られる。その上で児童生徒の発達段階に応じた授業づくりをすることで「社会でいきる児童生徒」が育成されるのではないか？

# 今年度の取り組み概要



全体授業研究会

研究グループでの授業実践

各学部の段階に応じたテーマの設定する

日々の授業実践

実態把握表、基本表、基本表no2、授業評価シートを活用して、具体的な指導内容を考える

研修や分掌の連携等によって、  
キャリア発達の視点・将来のイメージを職員が共通理解する

学部の代表

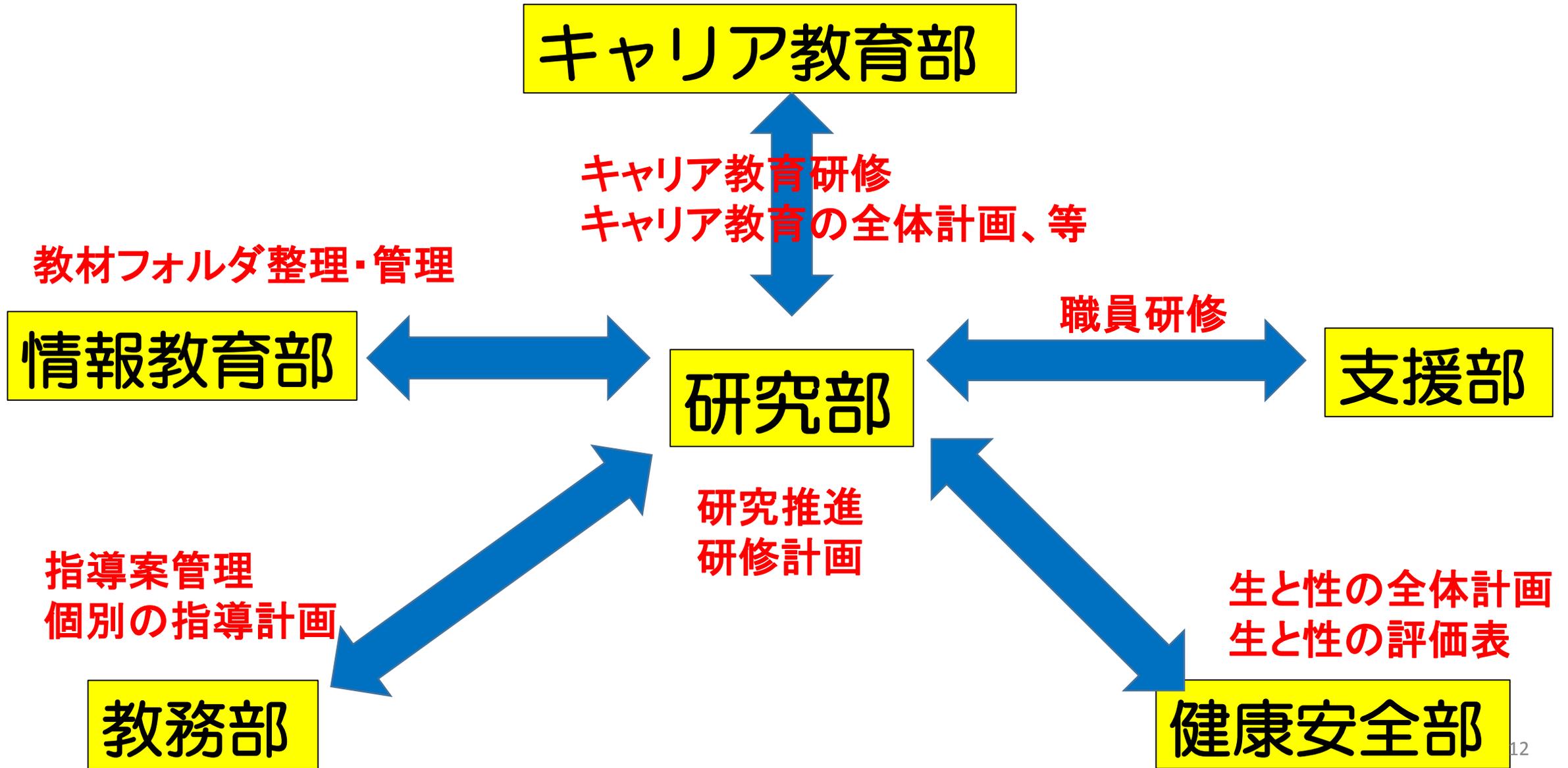
学部  
グループ  
個人

全体

なぜを  
意識した  
授業づくり

組織

# キャリア教育を推進する組織



## 系統的、一貫性のある授業づくりのため

### キャリア発達を促すためには？

キャリア教育を推進するプロセス（学校としての取り組み、授業としての取り組み）は一般に、

計画（Plan）→実行（Do）→評価（see） に沿って行う。

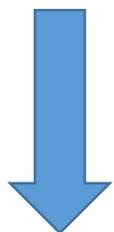
または、

Plan（計画）→Do（実行）→Check（評価）→Act（改善）

昨年は教師が将来を見据えた視点を持ち、実態把握表を使って実態を把握する。その上で授業実践を行った。

## グループでの実態把握表の活用

### Research (調査・実態把握)



Plan (計画) → Do (実行) → Check (評価) → Act (改善)

学部、グループ等での授業実践

# 平成26年度 成果と課題

## ○成果

- 将来をイメージして指導するために必要な視点が明確になった
- 各学部段階で必要な力が分かった
- 複数の目でみることや実態把握表を使うことで、児童生徒の実態が分かりやすかった

## ○課題

- キャリア発達の視点の必要性、イメージがつかみきれない
- 実態把握表の運用、項目等の見直し
- キャリア発達の視点が分かっても授業へのつなげかたが分からない
- 学部を超えてつなぐための仕組みが必要ではないか

# 将来へのイメージの具体化



指導の一貫性・系統性

キャリア発達の視点  
卒業生の情報  
社会の状況

将来へ全体像知る  
将来をイメージして実態を見る

実態把握表

指導内容を知る

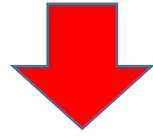
基本表

各教科・領域での指導

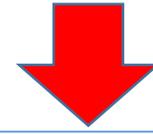
基本表NO2

# 「なぜ」を意識した授業

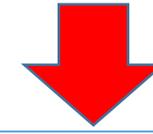
教師が児童生徒の卒業後のイメージを持つ



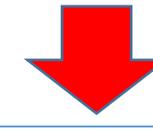
児童・生徒の実態を知る



つけたい力を「いつ」つけるかを考える



その学習時間で「何を」するのかを検討する



「どう」授業をするのかを検討する

## 教師が児童生徒の卒業後のイメージを持つ

キャリア発達の視点を知る

- 研修（キャリア教育部）
- 書籍紹介・資料（研究部）

卒業生のこと、進路先を知る

- 研修・わくわく職場体験  
（キャリア教育部・進路指導主事）

学部を超えた情報交換

- 情報交換会（研究部）

将来に向けての指導の視点を知る

- 実態把握表の活用（研究部）



教師が具体的な児童生徒の姿、社会のシステムを知る

# 児童・生徒の実態を知る

## ○分析的な実態把握

日々の行動観察 → 研修（支援部）

発達検査の読み取り・活用 → 研修（支援部）

## ○総合的な実態把握

複数の教師の視点でのチェック → 実態把握表、基本表の活用  
（研究部）

発達段階、各学部での指導について知る → 情報交換会（研究部）  
→ グループでの検討（学部）

# 実態把握表H27年度版

## 昨年度版との変更点

- 基本表と関連付け
- 項目の見直し  
(キャリア発達の視点の項目の追加)

区分	分野	項目	調査方法	調査年度	調査回数	調査対象
職業生活	職業生活	職業生活	基本表			
		キャリア開発	基本表			
	キャリア開発	キャリア開発	基本表			
		キャリア開発	基本表			
		キャリア開発	基本表			
		キャリア開発	基本表			
		キャリア開発	基本表			
		キャリア開発	基本表			
		キャリア開発	基本表			
		キャリア開発	基本表			
職業生活	職業生活	職業生活	基本表			
		キャリア開発	基本表			
	キャリア開発	キャリア開発	基本表			
		キャリア開発	基本表			
		キャリア開発	基本表			
		キャリア開発	基本表			
		キャリア開発	基本表			
		キャリア開発	基本表			
		キャリア開発	基本表			
		キャリア開発	基本表			
職業生活	職業生活	職業生活	基本表			
		キャリア開発	基本表			
	キャリア開発	キャリア開発	基本表			
		キャリア開発	基本表			
		キャリア開発	基本表			
		キャリア開発	基本表			
		キャリア開発	基本表			
		キャリア開発	基本表			
		キャリア開発	基本表			
		キャリア開発	基本表			

つけたい力を「いつ」つけるかを考える

各教科・領域での指導内容、指導段階を知ったり、  
指導場面を設定したりする

- 実態把握表、基本表、基本表no2の活用する（研究部）
- 個別の指導計画作成の際に実態把握表を活用する（教務部）
- グループでの情報交換（学部）

# 「どう」授業をするのかを検討する

- 各教科・領域のねらいをおさえる→ 基本表no2を活用する  
(グループ)
- 指導のポイントを知る → 各学部での共通理解 (学部)
- 教材等の紹介 → 教材フォルダの管理 (情報教育部)  
→ 過去の指導案の管理 (教務部)
- 授業の評価をする → 授業評価シートを使う (研究部)

# 基本表

指導内容を知る

領域	分野	番号	項目	段階別学習内容表
1 身 辺 自 立	① 食 事 へ 自 立 性	1	一口大に切り分けられたものをかみながら食べる。	生活(基本的)1段階
		2	食べられるものと食べられないものを見分けがつく。	
		3	ビスケットやクッキーなら、手を使って一人で食べる。	
		4	ピジョンで水分を飲む。	
		5	食べ物を載せてもらったスプーンを自分で運び口に入れる。	*日生Ⅰ
		6	自分でバナナ等の皮をむいて食べる。	生活(基本)1段階
		7	多少、食べ物をこぼしても、スプーンを使って一人で食べる。	生活(基本的)1段階、*日生Ⅱ

# 実態把握表

将来への全体像をつかむ

領域	分野	参照	優先
動き	動き	基本表	
健康	健康	基本表	
	性に関すること	年計参照	
身辺自立	食事	基本表	
	着替え	基本表	
	排泄	基本表	
	清潔	基本表	
	入浴	基本表	
	睡眠	基本表	
家事	衣服	基本表	
	洗濯	基本表	
	調理	基本表	

# 基本表No2

各教科・領域で指導する内容を検討する

1段階	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師と一緒に食前に手を洗う。</li> <li>◇配膳のときに行儀よく待つ</li> <li>◇教師と一緒に、自分の食器を並べたり、片付けたりする。</li> <li>◇食前・食後のあいさつのしぐさをする。</li> <li>○教師が手を添えて食事等をする。</li> <li>・水分を吸い、飲み込む。</li> <li>※スプーンを近づけると口を開ける。</li> <li>・スプーンから飲むことができる。</li> </ul>
基本的生活習慣 [食事]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流動食を食べる。</li> <li>・スプーンから食べる。</li> <li>・さし出されたスプーンや、スプーンを持っている教師の指を握ることがある。</li> <li>○よくかんで食べる。</li> <li>・食べ物を自分でつかみ食べる。</li> <li>・他人が食べているものを欲しがらる。</li> <li>・ウェハウスなどを噛んで飲み込む。</li> <li>◇食べてはいけないといわれたものは食べない。</li> </ul>

評価項目	コメント
①「なんのために」の授業が大人、子どもが分かっているか	
②発達段階にあった課題であったか 「やりかたがわかる！」	
③児童生徒が「これならできそうだと」見通しを持っていたか	
④児童生徒が「やろう」としていたか	
⑤児童生徒が「わかった」「できた」と思える授業だったか	
良かったところ！	
こうしたらもっと良くなる！私ならこうする！	

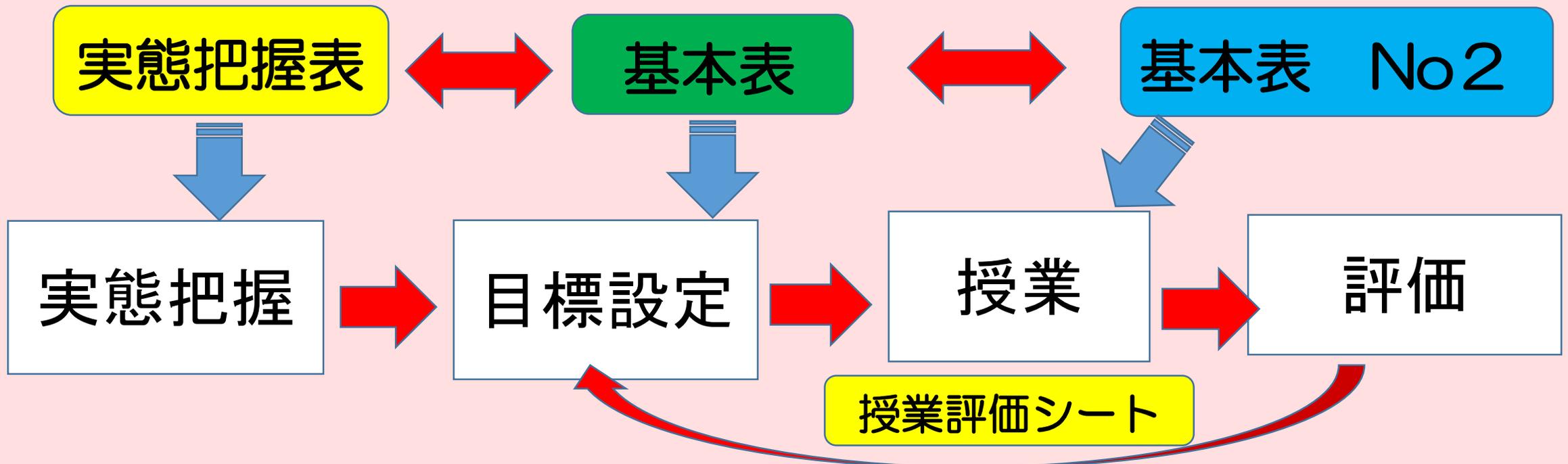
## 授業評価シートH27年度版(案)

- ・授業目的の確認  
「なぜ」「なんのために」
- ・実態、発達段階の視点  
「やりかたが分かる」
- ・できる状況づくり  
「できる」「わかる」
- ・主体性の視点  
「やろうとする」

# キャリア発達の視点を取り入れた授業

将来のイメージを持ち、

児童、生徒の夢、願い、意欲を大切にしながら・・・



「なぜ」「なんのために」「やりかたがわかる」  
「できる」「やろうとする」

# 白兔養護学校 キャリア教育全体計画

## 小学部

- 自分の意志を表現したり、選択したりする能力を育成する。
- 基本的な生活習慣を身につけるとともに、対人関係の基礎（意欲、関心、スキル）や集団活動の力を養う。

## 中学部

- 自分の将来の姿をイメージしながら、進路について考えを深め、選択・決定する力の育成に努める。
- 生徒の発達に応じて、コミュニケーション能力と社会性の伸長に努め、働く意欲や基礎的な態度を養う。

## 高等部

- 自己の進路や職業についての理解を深め、将来の進路を選択決定し、実現しようとする力を育成する。

## 訪問

- 児童生徒の生命の安全と健康管理に重点を置き、人や物、環境（外界）とのかかわりを豊かにし、存在そのもので自分らしく社会参加していく力を養う。

# 社会でいきる児童・生徒(案)

## 小学部

「自分のことを自分しようとしたり、自分の思いを伝えようしたりする児童」

## 中学部

「自分の良さが分かり、自分から周りに関わろうとする生徒」

## 高等部

「働きたい気持ちと働き続けられる力を持った生徒」

## 訪問

「自分の思いを表し、周囲と関わり、生活にたのしみのある児童生徒」

# 本校の児童生徒の実態

卒業する多くの生徒は、学年の進行とともに卒業後の生活や働く意識を高め、力をつけ、一般就労、福祉就労をしていく。しかし、離職等のケースもある・・・。

理由としては・・・

- 働く意欲が育っていない。
- 児童生徒が思っている「できる」と、社会的に見た「できる」にズレがある。
- 日生面で支援が必要である。
- 自分の気持ちコントロールできず、社会的に見て、不適切な行動がある。
- 適切なコミュニケーションスキルが少ない。
- 余暇のバリエーションが少なかったり、自由な時間の使い方が分からない。
- 素直に話を聞いたり、受け入れたりすることが難しい。
- 友だちや周囲の人との適切な関わり方がわからない。  
(あいさつ、相談、連絡、報告、世間話、等)
- より自分の力を発揮できる場所への転職したい。

※本校、産業現場等における実習の反省等

# 人間関係形成・社会形成能力

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力



他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等



話を聴く、伝える、仲よくする、一緒にする、とけこむ、誘う、ルールを守る、待つ、思いやる、受け入れる、場を読む、助ける

# 人間関係形成・社会形成能力（本校のキャリア教育の年間計画）

## 小学部

- ・ 友だちや教師と仲良く遊ぶ。
- ・ 「ありがとう」、「ごめんなさい」を素直に言う
- ・ 身ぶりや言語等、自分なりの方法で身近な人に自分の気持ちを伝える。
- ・ あいさつや返事をする

## 中学部

- ・ 友だちのよいところを見つける。
- ・ 相手の目を見て挨拶や返事をする。
- ・ 場に応じたやりとりをする。
- ・ 友だちと協力して学習や活動に取り組む
- ・ 相手に自分の思いを伝える。
- ・ してもらったことに対してお礼を言う。
- ・ 集団の中で自分の思いや意見を適切に伝える。

## 高等部

- ・ 自分と異なる意見を尊重する。
- ・ 状況に応じて挨拶や返事をする。
- ・ 相手に分かるように必要な情報を伝えたり、自分の思いや意見を適切に伝えたりする。
- ・ 集団の活動に参加し、役割と責任を理解し、チームとして協力・共同して活動に取り組む。
- ・ 相手の立場に立って考え行動する。

# 自己理解・自己管理能力

自分ができること、意義を感じることに、したいことについて、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力



自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等



身を守る、やりたくなる、チャレンジ、状態が分かる、自分でやろうとする、気持ちを整える、あきらめる、振り返る

# 自己理解・自己管理能力（本校のキャリア教育の年間計画）

## 小学部

- 自分の好きなことや嫌いなことが分かる。
- 「していいこと」が分かる。
- 日常生活に必要な簡単なきまりが分かり、それを守って行動する。
- 自分の苦手なことにも取り組もうとする。
- 自分の好きなことを持つ
- 「してはいけない」ことが分かる。
- 自分のことは、自分でやろうとする

## 中学部

- 自分のよいところを見つける。
- 良いと思うことを進んで行う。
- 自分がしなければならぬ学習や仕事をしっかり行う。
- 自分の仕事に対し責任を感じ、最後までやり通そうとする。
- 自分の好きなもの、大切なものを持つ。
- してはいけないことが分かり、我慢する。

## 高等部

- 自分の長所や短所に気づく。
- 周囲から褒められる、認められる行動をする。
- イライラした時や疲れた時に自分から意思表示する。
- 長時間労働に対応できる体力をつける。
- 失敗から学ぶ力をつける。
- 感情に左右されないで気持ちをコントロールする。
- 目的に合わせた服装をする。

# 課題対応能力

仕事をする上での様々な課題を発見、分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力



情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等



気づく、やめる、訴える、助けを求める、対応する、考える、悩む、手がかりをつかむ、結果を予測する、構えを作る

# 課題対応能力（本校のキャリア教育の年間計画）

## 小学部

- 仕事や働くことなどに関する様々な情報に接し興味を持つ。
- 簡単なルールや決まりを守って行動する。
- 学習や活動に見通しを持って行動しようとする。
- 活動の準備や片づけをする。
- 分からないことは、身近な人に聞いたり、調べたりする。
- 自分の仕事を最後までやり通そうとする。
- 活動を通してがんばったことや楽しかったことを振り返る。

## 中学部

- 公共交通機関を利用する時のルールやマナーを知り、適切に行動する。
- 仕事の役割の必要性が分かる。
- 分からないことや困ったことを身近な人に尋ねたり相談したりする。
- 学習や活動の計画を立てる。
- 目的を持った計画的な買い物を経験し、適切に金銭処理をする。
- 既に示されたり、教えられしたりしたものを基に確認することができる。
- 決められた時間や決まりを守ろうとする。
- ある一つの学習や活動に見通しを持って、意欲的に取り組む。

## 高等部

- 職業生活に必要な事柄の情報収集し、活用する。
- いろいろな職場で働く体験を通して、自分の職業適性を考える。
- 学習や活動の計画を立て主体的に行動しようとする。
- 金銭管理、健康管理ができる。
- 困った時には、自分から支援を求める。
- 制度、サービスについて理解し利用する。
- 他者の評価を受け入れて目標を新たに設定する。

# キャリアプランニング能力

働くことの意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置づけ、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力



学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等



自分を知る、選ぶ、折り合いをつける、役割がわかる、役割を果たす、決める、手を貸す、経験から学ぶ、先を見通す

# キャリアプランニング能力（本校のキャリア教育の年間計画）

## 小学部

- ・学校などの集団活動において、簡単な係活動を主体的に取り組む。
- ・校内や家庭の身近で働く人の様子を見て働くことに関心を持つ。
- ・いろいろなことを体験し、好きなことを増やす。
- ・自分でやろうと決めた活動に取り組む
- ・行動や活動の後に、楽しかったことやがんばったことを振り返る。

## 中学部

- ・作業学習や産業現場等の実習を通して、様々な仕事を知る。
- ・憧れや目標となる先輩や身近な人のがんばりを知る。
- ・自分の将来について、夢や目標を持つ。
- ・自分の夢や目標実現のために、より良い方法を選択実行する。
- ・学ぶことや働くことの大変なことと良いことの両方を考え、大変なことでも自分のためにがんばろうと考える。

## 高等部

- ・希望する職種で仕事を体験し自分の適性を知る。
- ・卒後の生活を具体的にイメージし進路を考える。
- ・自分の好きなことが分かり、自信を持って意思決定する。
- ・目的地や時間を考え公共交通機関を利用する。
- ・帰宅後の休日の過ごし方を考え、余暇を充実させて生活しようとする。

- 適切なコミュニケーションスキルが少ない。
- 素直に話を聞いたり、受け入れたりすることが難しい。
- 友だちや周囲の人との適切な関わり方がわからない。  
(あいさつ、相談、連絡、報告、世間話、等)
- 自分の気持ちがコントロールできず、社会的に見て、不適切な行動がある。
- 児童生徒が思っている「できる」と、社会的に見た「できる」にズレがある。
- 働く意欲が育っていない。
- 日生面で支援が必要である。
- 余暇のバリエーションが少なかったり、  
自由な時間の使い方が分からない。
- より自分の力を発揮できる場所への転職したい。

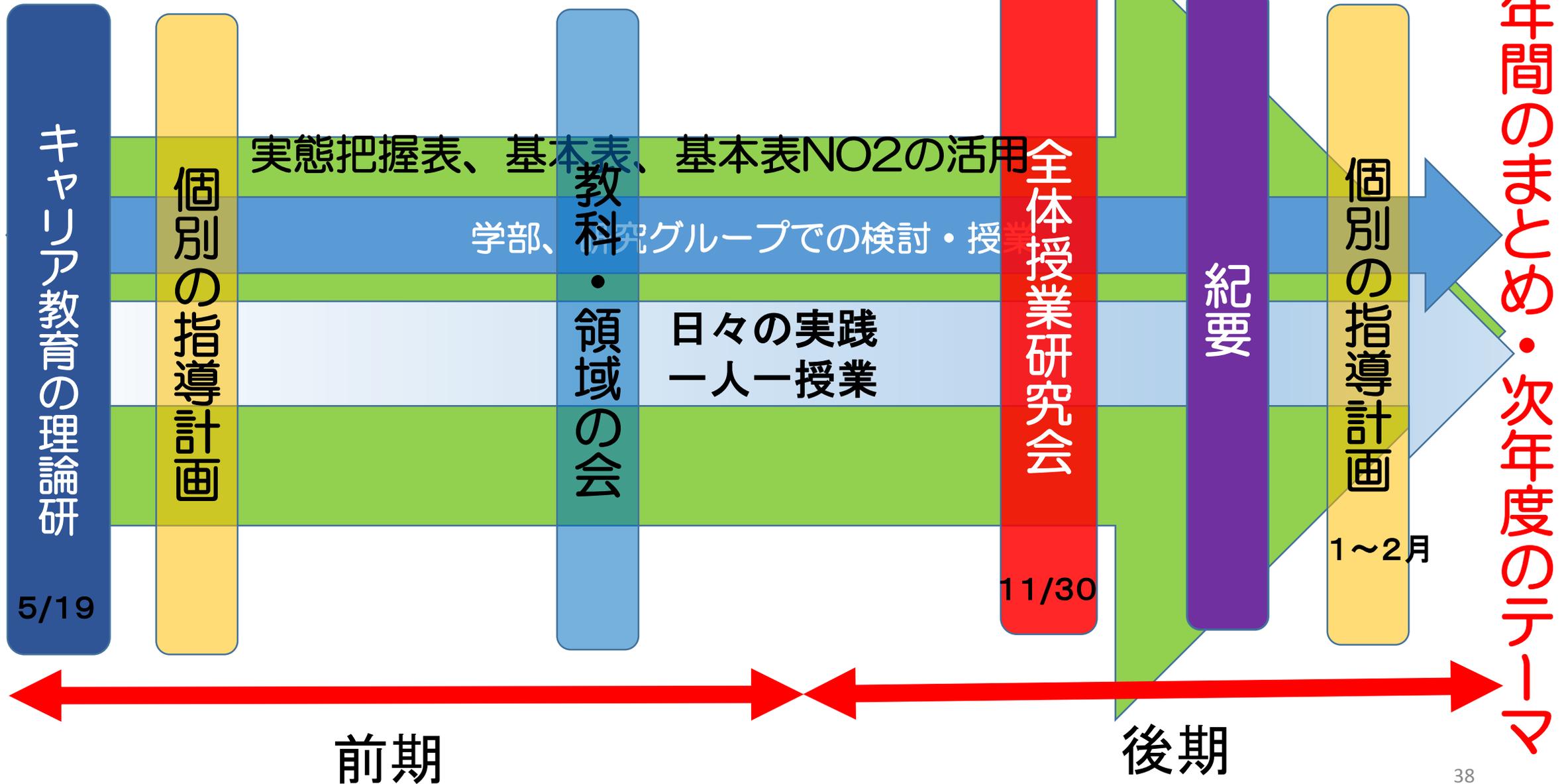
人間関係形成・社会形成能力

自己理解・自己管理能力

課題対応能力

キャリアプランニング能力

# 1年間の研究の流れ



# 参考文献

- 「基本表」 鳥取県立白兔養護学校
- 「特別支援学校学習指導要領解説 総則編 幼稚部・小学部・中学部」 文部科学省
- 「特別支援学校学習指導要領解説 総則編 高等部」 文部科学省
- 「段階別学習内容表」 鳥取大学附属特別支援学校
- 「自立活動教育内容表」 鳥取県立米子養護学校
- 「乳幼児言語発達評定尺度」
- 「学習到達度チェックシート」 岩手県立総合教育センター
- 「各教科の具体的な内容」 全国知的障がい養護学校長会試案
- 「豊かな自己理解を育むキャリア教育」 小島道生・片岡美華 ジアース教育新社
- 「自立と社会参加を実現する個別の指導プログラム」 上岡一世 明治図書
- 「キャリア教育の教科書」 菊地一文
- 「キャリア発達支援研究Ⅰ」 キャリア発達支援研究会
- 「みんなのライフキャリア教育」 渡邊昭宏
- 「自閉症・広汎性発達障がいのための感覚統合セラピー・スクリーニングチェックリスト」  
(ヤックラ)